岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

ダイジェスト版

寿楽寺廃寺跡　軒丸瓦

高畑遺跡　浄瓶

背景　日焼遺跡　瑞花双鳥八稜鏡

横蔵寺旧境内　本堂跡

寺屋敷遺跡　多口瓶

２０２５

岐阜県文化財保護センター

ごあいさつ

当県は、「飛山濃水」と例えられるように、北部には標高3,000mを超える山々が連なる一方、南部は木曽三川により形成された濃尾平野が展開する、豊かな自然環境に恵まれた地です。また、日本の中央に位置することから、古くより東西文化の接点の地としても発展し、多くの文化財を有し、古来からの信仰が今なお受け継がれる古刹が数多く存在します。近年の発掘調査等の成果で、各地の古代・中世寺院の実態が明らかにされつつありますが、一方で寺院が多く立地した山間地では、近年多発する豪雨による災害を未然に防ぐための開発事業が予想されることから、事前把握が急務となり、平成30年度から令和４年度にかけて、国庫補助事業として「岐阜県古代・中世寺院跡総合調査」を実施しました。そして、本書は、岐阜県が誇る豊かな歴史や文化を、県民の皆様に広く知っていただくため、岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書のダイジェスト版として作成し、岐阜県を代表する遺跡や当センターが発掘調査等を実施した寺院跡を掲載しております。本書が「ふるさと岐阜」自慢を深めるきっかけとなれば幸いです。

最後となりましたが、本事業の実施にご協力いただきました各寺院関係者の皆様、地元の皆様、関係機関並びに関係者各位に深く御礼申し上げます。

令和７年２月

岐阜県文化財保護センター
所長　塚原　雅巳

例　言

1　本書は、平成30年度から令和４年度にかけて行った、岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書（「寺院報告書」とする）のダイジェスト版である。

2　地形観察図・遺物の実測図は、寺院報告書及び当センター発掘調査報告書に掲載したものを使用している。

3　第１章・２章の遺構写真及び第３章の写真の一部（写真47、54～57）の撮影は、当センター調査担当職員が行った。その他の遺構・遺物の写真は、当センター発行の発掘調査報告書に掲載した写真を使用している。

4　岐阜県所在寺院関係者の皆様には、本調査の趣旨について御理解いただき、快く御協力いただいた。記して感謝を申し上げたい。

5　寺院報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書内でも記したが、重ねて感謝の意を表する次第である（敬称略五十音順・全国地方公共団体コード順）。

上村俊邦、高橋教雄、中島義晴、早川万年、藤澤良祐、水上精榮、三好清超、山梨県文化財保護センター、一般社団法人岐阜県猟友会、岐阜市、大垣市教育委員会、高山市教育委員会、多治見市教育委員会、関市、中津川市、美濃市教育委員会、瑞浪市教育委員会、羽島市、恵那市教育委員会、美濃加茂市教育委員会、土岐市教育委員会、各務原市教育委員会、可児市、山県市教育委員会、瑞穂市教育委員会、飛騨市教育委員会、本巣市教育委員会、郡上市教育委員会、下呂市教育委員会、海津市教育委員会、羽島郡二町教育委員会、養老町教育員会、垂井町教育委員会、関ケ原町教育委員会、神戸町教育委員会、輪之内町教育委員会、安八町教育委員会、揖斐川町教育委員会、大野町教育委員会、池田町教育委員会、北方町教育委員会、坂祝町教育委員会、富加町教育委員会、川辺町教育委員会、七宗町教育委員会、八百津町教育委員会、白川町教育委員会、東白川村教育委員会、御嵩町教育委員会、白川村教育委員会

6　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。

7　土層の色調は、小川正忠・竹原秀雄2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

8　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

9　各寺院跡位置図（図６，９，12，15，18，21，24，27，29，31，34）は、国土地理院発行２万５千分の１地形図を改変し作成している。

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書ダイジェスト版　目次

ごあいさつ

例言

第１章　岐阜県古代・中世寺院跡総合調査について

第１節　悉皆調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２節　報告書総括の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～４

第３節　県を代表する古代・中世の山岳信仰・・・・・・・・・・・・・・４～８

第２章　岐阜県の古代・中世寺院について

第１節　山中に残る主な寺院跡の概要・地形観察図凡例・・・・・・・・・・9

第２節　岐阜県の主な寺院跡

横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）［揖斐川町］・・・・・・・・・・・・・・10～12

円興寺旧境内（元円興寺跡）［大垣市］・・・・・・・・・・・・・・・13～15

栗原九十九坊跡　［垂井町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16～18

柏尾寺（柏尾廃寺跡）［養老町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19～21

勢至山光堂寺（光堂寺廃寺跡（勢至寺跡））［養老町］　・・・・・・22～24

大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡）［養老町］・・・・・・・・・・・・・25～27

愚渓寺旧境内（愚渓寺元屋敷跡）［御嵩町］・・・・・・・・・・・・・28～30

桜堂遺跡・笹山遺跡　［瑞浪市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・31～33

伝心宗寺跡　［瑞浪市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34～36

鳳慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡）［下呂市］・・・・・・・・・・・・・37～39

光寿庵跡・石橋廃寺跡　［高山市］・・・・・・・・・・・・・・・・・40～42

第３節　内容確認調査等または発掘調査した寺院跡

横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）［揖斐川町］・・・・・・・・・・・・・・・43，44

寺屋敷遺跡　［揖斐川町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45，46

高畑遺跡　［池田町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47，48

日焼遺跡　［高山市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49，50

寿楽寺廃寺跡　［飛騨市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51，52

上原遺跡　［揖斐川町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53，54

寺平遺跡　［揖斐川町］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55，56

美濃国分寺跡　［大垣市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57，58

龍渓寺跡　［中津川市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59，60

三枝城跡　［高山市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61，62

西ケ洞廃寺跡　［飛騨市］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63，64

参考文献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69～71

挿図目次

図１　各年度調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
図２　県内古代・中世寺院分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
図３　白山信仰・高賀山信仰関連古代寺院跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
図４　長瀧寺跡関係地　位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
図５　地形観察図凡例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
図６　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
図７　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・11
図８　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
図９　円興寺旧境内（元円興寺跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
図 10　円興寺旧境内（元円興寺跡）地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・14
図 11　円興寺旧境内（元円興寺跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
図 12　栗原九十九坊跡　位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
図 13　栗原九十九坊跡　地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
図 14　栗原九十九坊跡　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
図 15　柏尾寺（柏尾廃寺跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
図 16　柏尾寺（柏尾廃寺跡）地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
図 17　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
図 18　勢至山光堂寺（光堂寺廃寺跡（勢至寺））位置図・・・・・・・・・・・・・・・・22
図 19　光堂寺廃寺跡　地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
図 20　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
図 21　大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
図 22　竜泉寺廃寺跡　地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
図 23　大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・27
図 24　愚渓寺旧境内（愚渓寺元屋敷跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
図 25　愚渓寺旧境内地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
図 26　愚渓寺旧境内（愚渓寺元屋敷跡）　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・30
図 27　桜堂遺跡・笹山遺跡　位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
図 28　桜堂遺跡・笹山遺跡　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
図 29　伝心宗寺跡　位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
図 30　伝心宗寺跡　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
図 31　鳳慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡）位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
図 32　鳳慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡）地形観察図の一部・・・・・・・・・・・・・・・38
図 33　鳳慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡）地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
図 34　光寿庵跡・石橋廃寺跡　位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
図 35　光寿庵跡・光寿庵土門城館跡類似遺構　地形観察図・・・・・・・・・・・・・・・42
図 36　横蔵寺旧境内　本堂跡・池　地形測量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

図 37　横蔵寺旧境内　推定塔跡地形測量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
図 38　横蔵寺旧境内　仁王門跡地形測量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
図 39　横蔵寺旧境内　遺物分布状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
図 40　寺屋敷遺跡　第 1 調査面遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
図 41　龍渓寺跡　TP 1 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
図 42　龍渓寺跡　TP 2 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
図 43　龍渓寺跡　TP 3 遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
図 44　三枝城跡　山林寺院跡の検出地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
図 45　西ヶ洞廃寺跡　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
図 46　掲載遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

表目次

表 1　県内寺院の成立状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
表 2　時期別の成立数等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
表 3　時期別の立地数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
表 4　掲載遺物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
表 5　掲載写真一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67，68

第１章　岐阜県古代・中世寺院跡総合調査について

第１節　悉皆調査の概要

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査は、平成 30 年度から令和４年度の５年間（現地での調査４年、報告書執筆１年）をかけて行いました。県内の寺院跡の中には、その存在を知られぬまま埋もれている場合もあると思われ、昨今の多発している災害等によって滅失するような事態も懸念されます。そうした中で古代・中世寺院の悉皆的な調査を行うことができたのは、文化財の保存・活用のために、文化財の現状を正確に把握し、地域の歴史文化を次世代に継承する上で重要な意味があります。

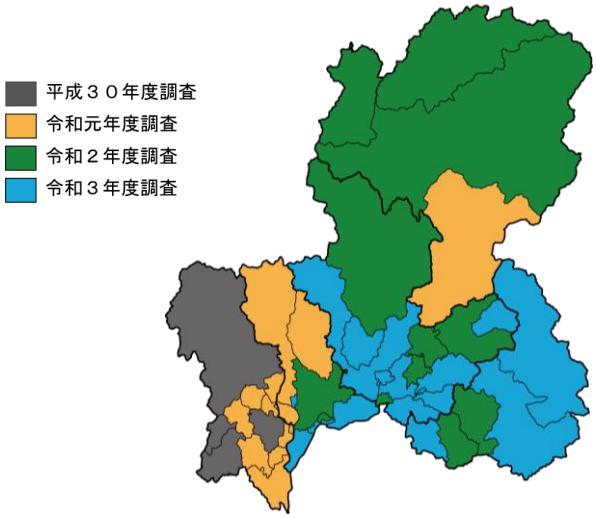


図１　各年度調査の経過

写真１　踏査の様子

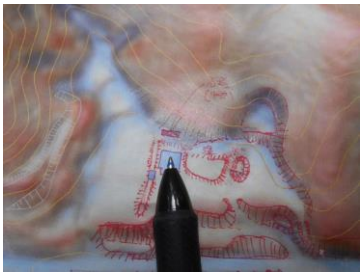


写真２　地形観察図作成

写真３　内容確認調査

調査では、基礎資料調査及び現地確認調査で得た情報をもとに地形観察図を作成しました。その結果、近世以降成立の寺院を含めた 3,464 か寺のうち、1,918 か寺の古代・中世寺院を確認し、127 か寺の地形観察図を作成しました。また、寿楽寺廃寺跡（飛騨市）、龍渓寺跡（中津川市）の内容確認調査、横蔵寺旧境内（揖斐川町）の地形測量・遺物分布調査を行いました。これらの調査から、寺院分布・寺院立地の特徴や変遷、寺域の空間構造、宗派の広がりや衰退、地域ごとの特徴などを明らかにすることができました。

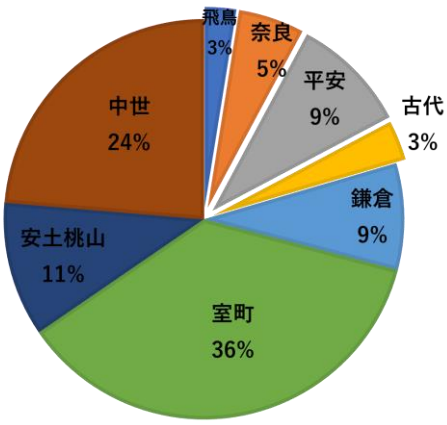
第２節　報告書総括の概要（図２）

3,464 か寺を対象として調査した結果、古代成立寺院 393 か寺、中世成立寺院 1,525 か寺を確認しました。飛鳥時代には、岐阜圏域で寺院の成立が目立ち、奈良時代になると広い範囲で寺院の成立が増加します。平安時代になると、西濃圏域での成立増加が顕著となり、東濃圏域においても成立が増えてきます。中世になると全圏域で新しい寺院の成立が増えます。

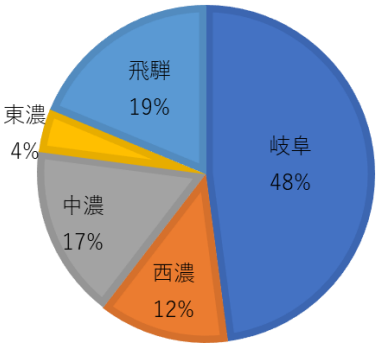
表１　県内寺院の成立状況

時代＼圏域名	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	小計
飛鳥	23	6	8	2	9	48
奈良	30	33	28	3	8	102
平安	46	79	36	12	8	181
古代(細分不能)	12	24	7	8	11	62
古代寺院小計	**111**	**142**	**79**	**25**	**36**	**393**
鎌倉	56	41	35	11	22	165
室町	216	194	141	50	96	697
安土桃山	44	50	69	34	12	209
中世(細分不能)	103	175	81	51	44	454
中世寺院小計	419	460	326	146	174	1525
古代・中世寺院合計	**530**	**602**	**405**	**171**	**210**	**1918**
参考寺院等						
近世(江戸)	172	187	148	124	31	662
時期不明	179	173	152	106	68	678
近代以降等	73	50	35	35	13	206
近世以降等寺院小計	424	410	335	265	112	1546
対象寺院合計	**954**	**1012**	**740**	**436**	**322**	**3464**

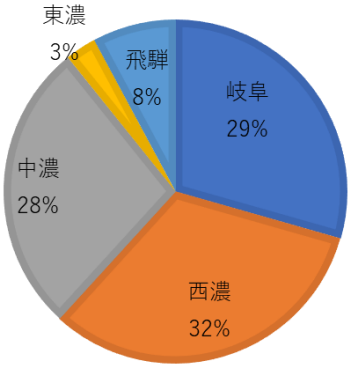
全域



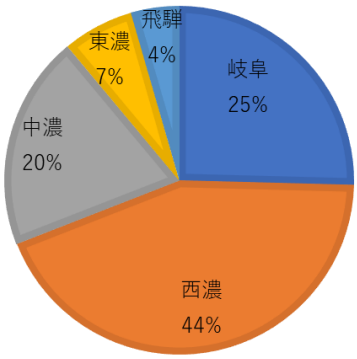
飛鳥



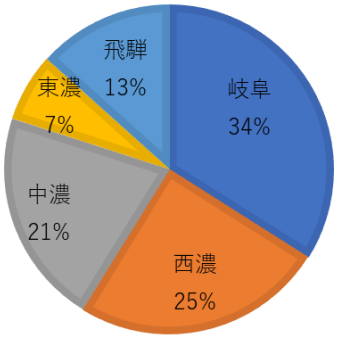
奈良



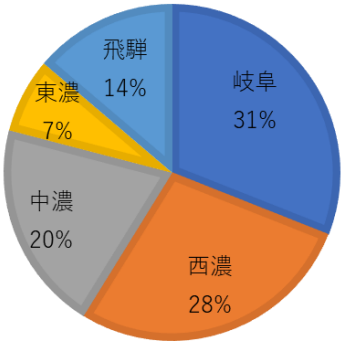
平安



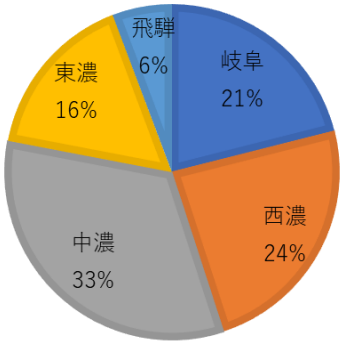
鎌倉



室町



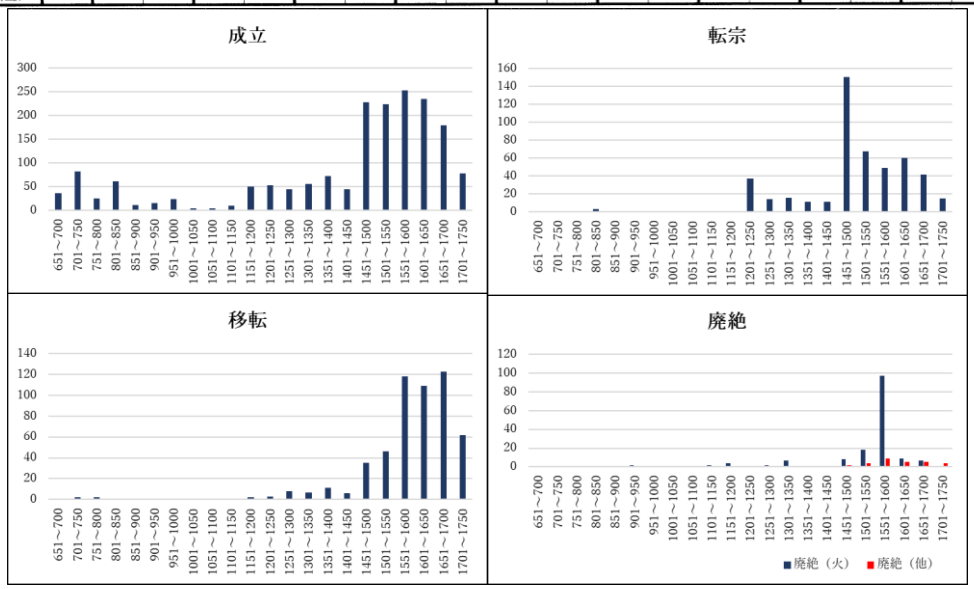
安土桃山



寺院の成立記録は、７世紀からみられます。宮代廃寺跡（垂井町）、弥勒寺跡（関市）、山田寺跡（各務原市）、杉崎廃寺跡（飛騨市）などは発掘調査の結果から７世紀末までに成立していたことがわかっています。その後、８世紀前半から９世紀前半までには、美濃国分寺（大垣市）、国分尼寺（垂井町）や飛騨国分寺（高山市）、国分尼寺（高山市）が成立しています。12 世紀後半から 15 世紀まで、土岐氏が美濃国で勢力を拡大し、積極的に寺院の造営を行ったことを主な原因として、多くの寺院が成立しています。15 世紀後半から 17 世紀後半までは、蓮如などの布教活動により真宗の寺院が急増することで、成立数が多くなっています。また、15 世紀から 16 世紀には、武家勢力の争いによって多くの寺院が焼失しています。一方でその後に多くの寺院が移転・再興しています。また、斎藤氏や織田氏は積極的に岐阜城下へ寺院の移転を行っています。

表２　時期別の成立数等

西暦内容	700		800		900		1000		1100		1200		1300		1400		1500		1600		1700	
成立	36	82	25	62	11	16	24	5	5	10	51	53	45	56	73	45	228	224	254	236	180	78
転宗				3	1	1					1	37	14	16	11	11	151	68	49	60	42	15
移転		2	2		1				1	1	2	3	8	7	11	6	35	46	118	109	123	62
廃絶(火)						2	1			2	4	1	2	7		1	8	18	97	9	7	
廃絶(他)					1						1		1	1			2	4	9	5	5	4

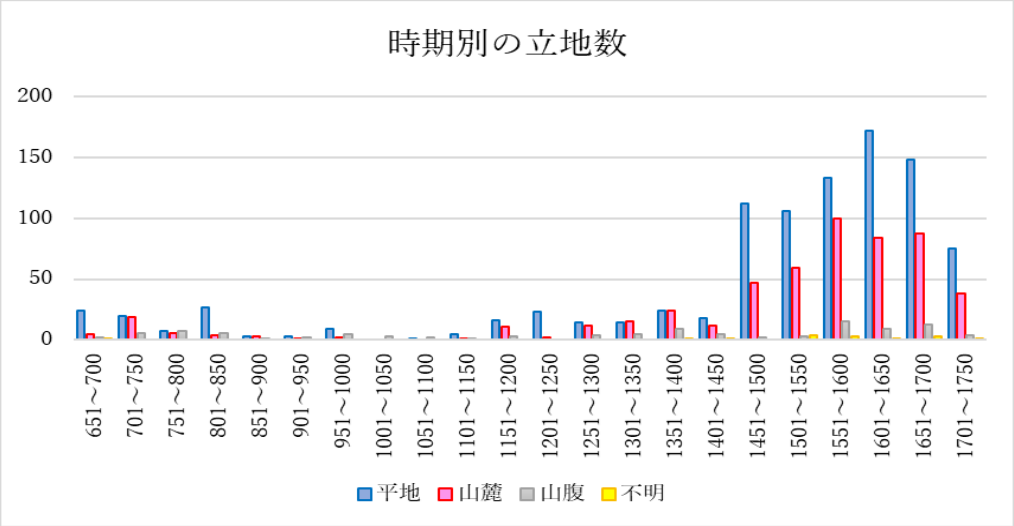


古代寺院が最も多く分布するのは８世紀に設置された美濃国府（垂井町）や美濃国分寺、国分尼寺などを中心とする濃尾平野の北部の東山道沿いです。岐阜圏域から中濃圏域、東濃圏域にかけての東山道沿いにも一定数の古代寺院が分布します。特に中濃圏域は豪族ムゲツ氏の本拠地であり、７世紀後半には武儀評（ひょうが）衙が設置され、早い時期から寺院の成立が見られます。飛騨圏域では、８世紀に飛騨国府や飛騨国分寺、国分尼寺が設置された宮川沿いの盆地に古代寺院が集中します。

中世に入ると、治水技術の向上や水運の発達により、河川沿いの集落や街道が増加し、木曽三川や宮川の支流やそれ以外の河川周辺にも寺院の成立が目立つようになります。県南部（東濃圏域北部を除く）では山頂や山腹などに新しい寺院が成立することは少なくなり、山腹であっても集落に近い場所に寺院が成立することが多くなります。一方、飛騨圏域や東濃圏域北部では山腹や山頂にも新しく寺院が成立しています。

表３　時期別の立地数

西暦 / 内容	700			800			900			1000			1100			1200			1300			1400			1500			1600			1700		合計
平地	24	20	7	27	3	3	9		1	5	16	23	14	14	24	18	112	106	133	172	148	75	954
山麓	5	19	6	4	3	1	2			1	11	2	12	15	24	12	47	59	100	84	88	38	533
山腹	2	6	7	6	1	2	5	3	2	1	3		4	5	9	5	2	3	15	9	13	4	107
不明	1														1	1		4	3	1	3	1	15



第３節　県を代表する古代・中世の山岳信仰（図３・４）

今回の悉皆調査では、片道１時間以上の登山を要する寺院跡の調査を実施することができませんでした。そのため、CS 立体図で確認できる山頂や市町村境の尾根上の平坦面を実見することができなかったため、県内の山岳信仰の調査については将来の課題です。

岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書と本ダイジェスト版では、自治体史で確認した白山信仰と高賀山信仰に関係する主な寺院・神社を分布図に掲載しています。

白山信仰とは、養老元（717）年に白山を神体として泰澄により開山され、平安時代には、奥美濃における白山修験の拠点であった長瀧寺が白山信仰下で栄えて密教と結びつき、平安時代中期には天台別院として成立しました。古代から長瀧寺を中心に泰澄やその弟子が開いたという伝承（起源）を持つ寺院が多く分布します。また、長良川沿いの国道 156 号は白山への信仰道（郡上街道）として発達しました。郡上街道

に沿って集落が発達し、寺院も街道沿いやその山際等に多くみられます。中世においては、長瀧寺は美濃番場として全盛期を迎えました。長瀧寺を中心に、下山七社（中宮・佐羅宮・別宮・本宮・金剣・岩本・三宮）という信仰拠点を形成して組織化され、信仰圏の拡大に伴い、次第に長良川を下って移動しました。神光寺は、平安時代後期の観音像や泰澄大師像、室町期の白山曼荼羅を有する寺院であり、三宮は白鳥町為真の白山神社から神光寺に移ったとされます。また、岩本宮は、白鳥町中津屋の白山神社から、鎌倉末期～南北朝時代には洲原白山権現に移り、さらに岐阜市大洞の願成寺、続いて伊吹山に移りました。美濃や尾張方面からの白山参詣者は、まず「白山前宮」洲原白山権現に参詣したといい、美濃禅定道の入口となっていました。中世成立の天台宗寺院は 14～15 世紀頃に郡上郡において多く見られますが、その多くが長瀧寺の配下であったり、長瀧寺で得度を得た人物が造営したりした寺院です。

関市と郡上市にまたがる高賀山では、白山信仰の変形と考えられる高賀山信仰が見られます。高賀山は、長良川中流域西岸の山岳地帯の中で最も高い山であり、濃尾平野の各地からその頂上を見ることができる山です。

高賀山を囲むように六社（蓮華峰寺（高賀神社）、滝の宮（滝神社）、蔵王権現（金峰神社）、巌屋本宮（本宮神社）、巌谷新宮寺（新宮神社）、星宮粥川寺（星宮神社））が造営されました。六社はいずれも伝承によって天暦年間（947～957）の成立であると伝わっていますが、蓮華峯寺（関市）や粥川寺（郡上市）では、平安中期頃の作と考えられている仏像を有しています。特に蓮華峯寺は、平安時代～鎌倉末期頃の仏像や懸仏等が多数みられますが、六社のうち唯一、神像を安置しており、高賀信仰の最古の中心的拠点であったと考えられます。高賀山信仰は中世以降全盛期を迎え、昭和の初め頃まで続いたといいます。

今回の調査では、県内の神仏習合について深く追究することができませんでしたが、明治時代の廃仏毀釈の影響を大きく受け、特に神宮寺の痕跡の詳細が明らかにできなかった寺院跡が多いと言えます。その中でも白山信仰と高賀山信仰については、現代の県民に引き継がれ、その保護に力が注がれていることは、まさに「清流ぎふ」のＤＮＡと言えるでしょう。

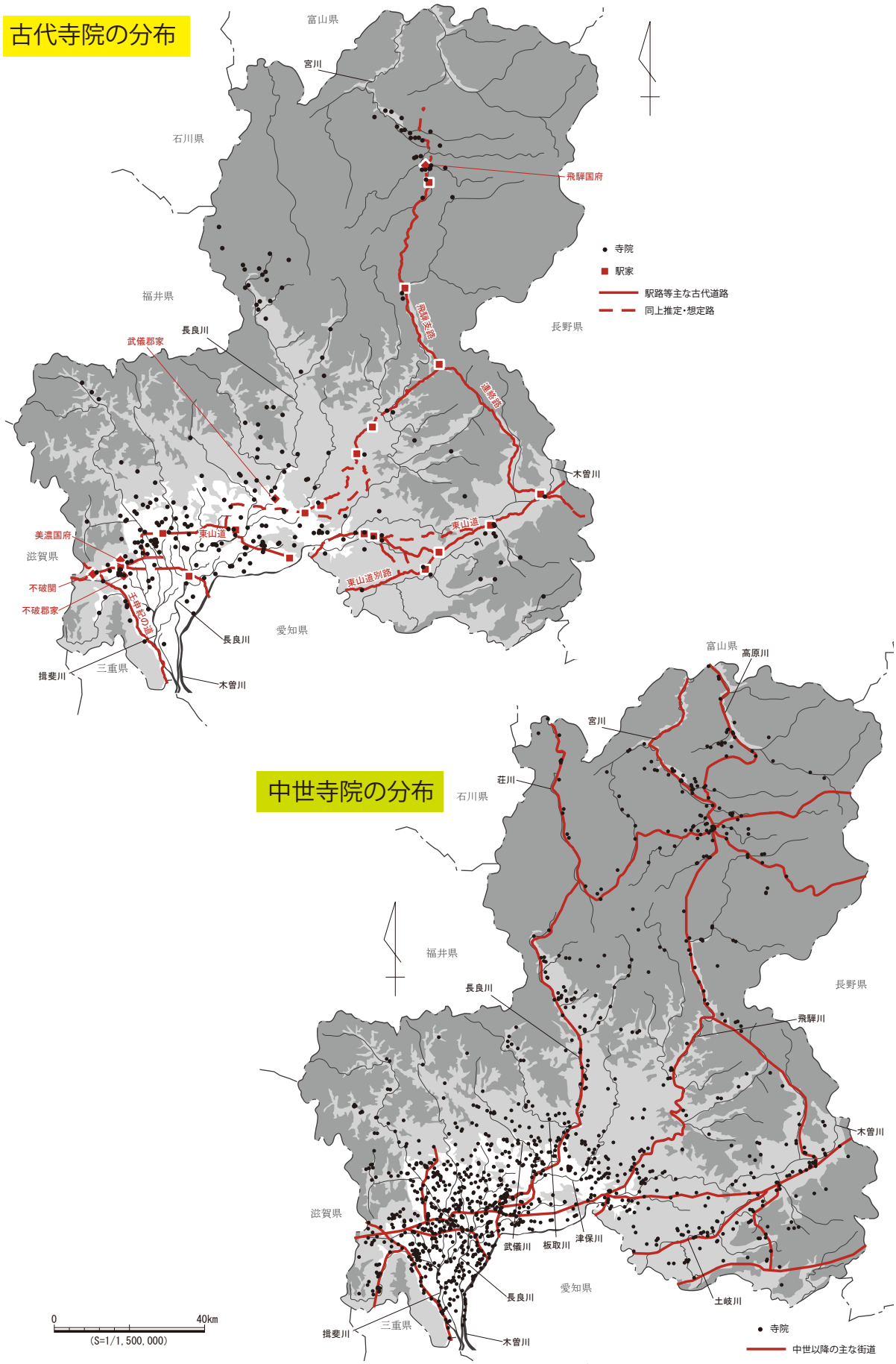


図２　県内古代・中世寺院分布図

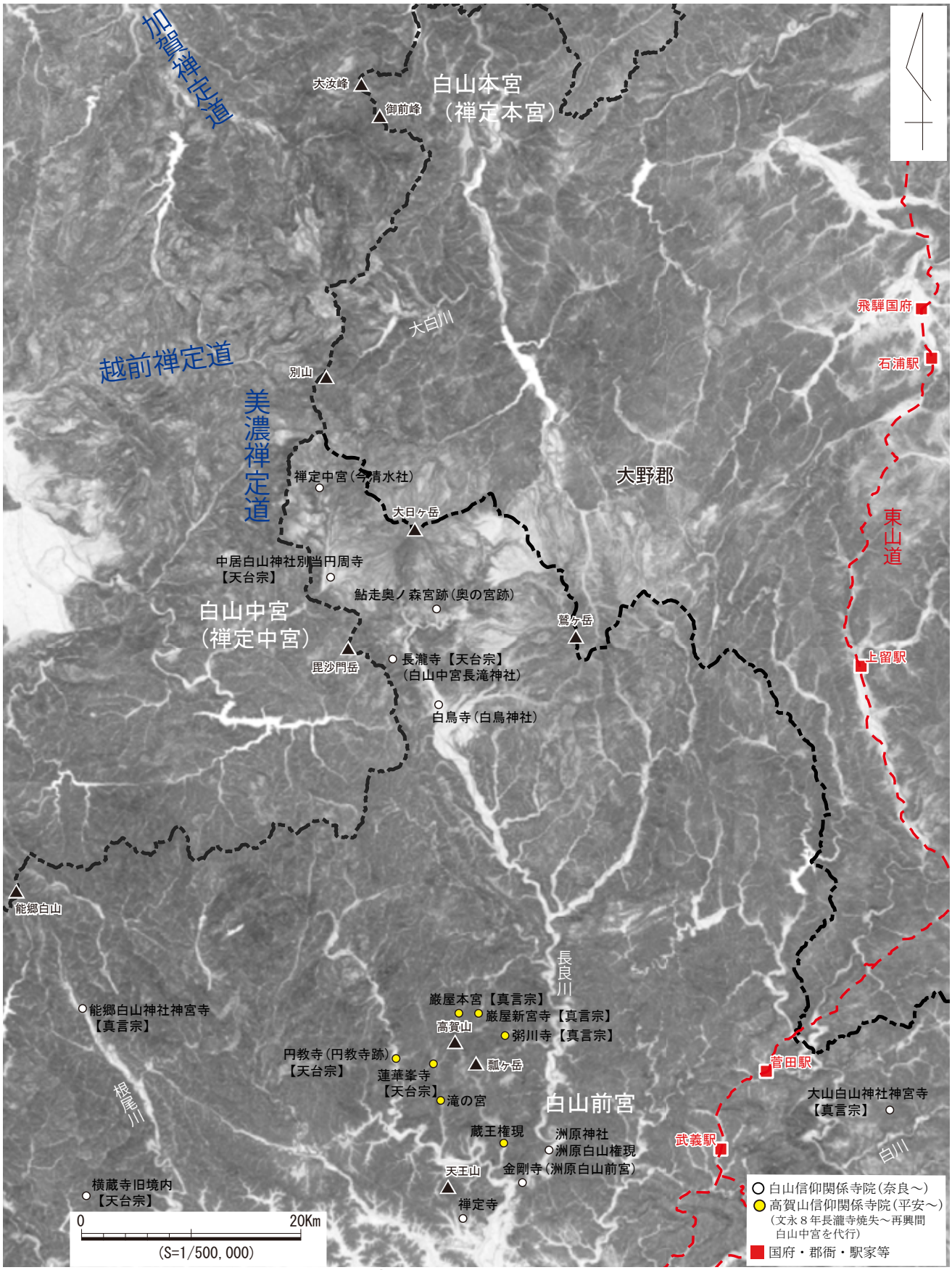


図３　白山信仰・高賀山信仰関係古代寺院跡位置図　※背景地図に地理院タイル傾斜量図を使用

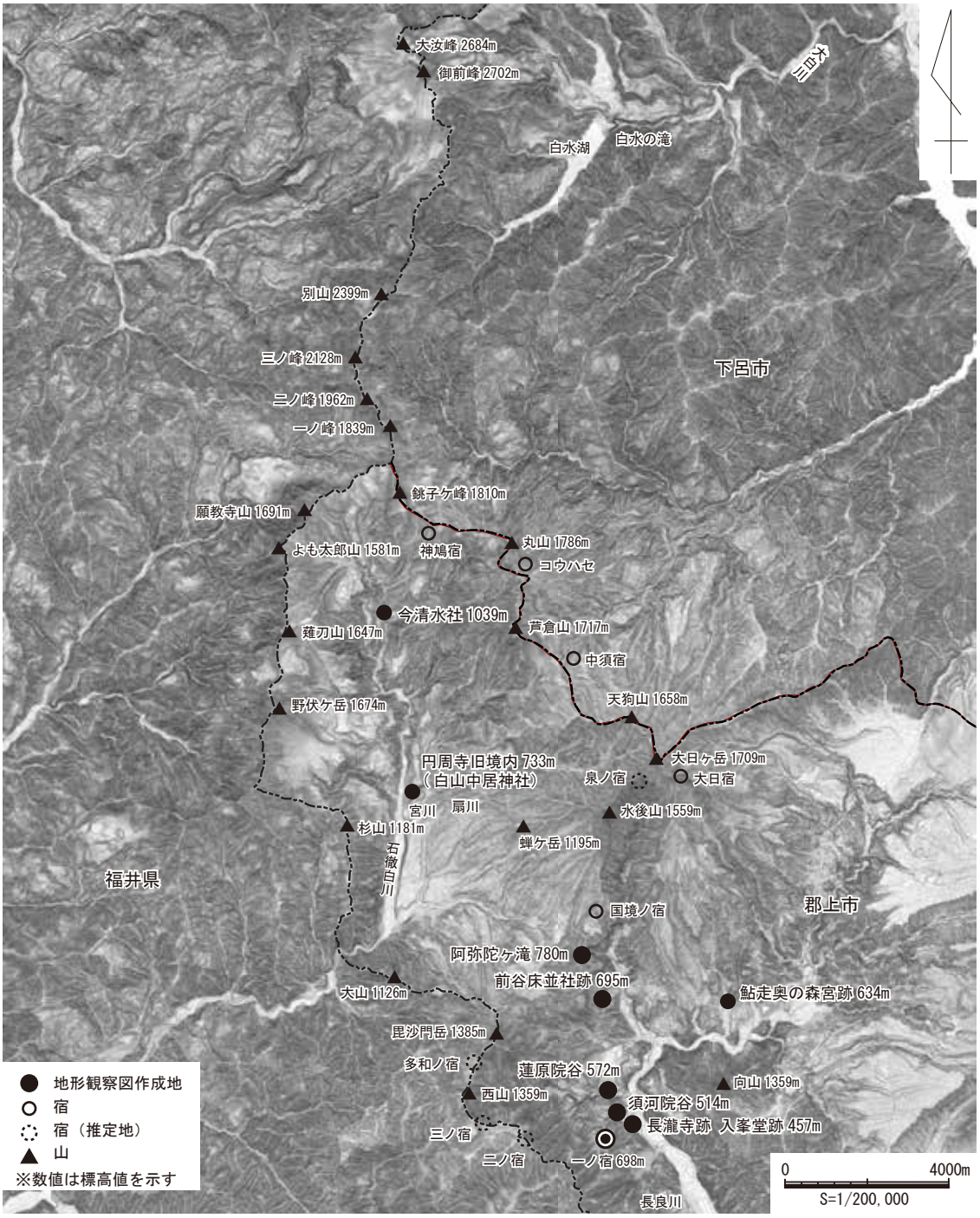


図４　長瀧寺跡関係地　位置図　※背景地図に地理院タイル傾斜量図を使用